

日本ボストン会会報

発行者 日本ボストン会事務局 277 横浜市青葉区若草台8-28 Fax 045-962-0866

日米関係とボストン 関場誓子

人材バンクとしてのボストン

ハーバードやMITといったボストンの学術機関から、これまでに、多数の学者が政権入りしてきている。現クリントン政権でも、つい最近まで、ナイ・イニシアティヴで知られたジョゼフ・ナイやエズラ・ヴォーゲルといった人たちが活躍していた。今回は、これらのボストン関係者の中で、米国外交にもっとも強い影響力を及ぼしたヘンリー・キッシンジャーを取り上げたい。キッシンジャーは、ニクソン大統領の時代に、国家安全保障担当の大統領補佐官として活躍した人物であり、外交史では、中ソとの間に緊張緩和、いわゆるデタントという時代を築きあげた人物として知られている。それでは、そのデタントは一体どのようにして構築され、またその過程でわが国との関係にどのような波紋を投げかけたのであろうか。

デタントの時代

まず前者について述べたい。キッシンジャーはデタントを構築する手段として、幾つかの異なる案件を組み合わせるリンケージという手段を用いた。1969年に発足したニクソン政権にとって、焦眉の課

題はベトナム問題であり、同年春までに米軍を撤兵し秘密交渉を実現させるというのが政権のシナリオだった。そうした戦略を進めるには北越に対する中ソの支援を弱めることが先決で、それには米と中ソそれぞれとの関係改善が必要であった。そのためにキッシンジャーが駆使した4年越しのリンケージは次のようなものであった。

(イ) 米は、中、ソそれぞれと和解すれば、北越への両国の支援が低下し、北越も米との秘密交渉に真剣に臨むようになると考えた。

(ロ) そこで中国にはソ連が中国を攻撃するような場合には米はこれを座視しないと伝え、他方ソ連には米中和解がなるかもしれないと示唆した。

キッシンジャーは、ドブレニンが中国の脅威の深刻さを訴えてきたことで益々三極外交への自信を強め、ソ連に対し米ソ関係はベトナム情勢次第ということを繰り返した。

(ハ) 折しも国境問題で中ソの緊張が高まった69年半ば、ソ連は、ソ連が中国を攻撃した場合の米の出方を打診してきた。事態を憂慮したキッシンジャーは、ソ連の攻撃が差し迫っている旨をプレ

(次ページに続く)

総会・懇親会のお知らせ

日時： 1996年10月25日(金)午後6時より8時半

会場： NEC三田ハウス芝クラブ

港区芝5丁目21番地7号、電話03-5443-1400

講演： ボストン・マラソン優勝者 山田敬蔵氏

歌： 吉野美知子さん

会費： 当日払 お一人6000円/同伴者 5000円

事前銀行送金 お一人5000円/同伴者 4000円

送金先： 第一勧業銀行浜松町支店芝浦シーバンス出張所

普通預金口座番号 1578981 口座名「日本ボストン会」

申込先： 日本ボストン会事務局 (同封葉書にて10月15日までに投函してお知らせ下さい)

(日米関係とボストン - 続き)

スに洩らすとともに、パキスタンを仲介に中国に米のシンパシーを伝達した。これに呼応するかのように同年秋中国は、50年代以降途絶えていた米中大使級会談の再会に同意してきた。これを見てドブレインはキッシンジャーとの一連の秘密交渉を申し入れ、キッシンジャーの古典的外交は奏功し始めた。

(二) 70年12月の時点のキッシンジャーの戦略は、ソ連に対して当時実務者レベルで交渉していたSALTの打開を働きかける一方、中国に対しては前向きなシグナルを送り続ける(例えば年頭教書に「中国人民共和国」の正式名称を使用)というものだった。中国からは確かな手応えがあり、71年4月パキスタンを通じてキッシンジャー訪中を促してきた。キッシンジャーの訪中の事実は事後劇的に発表され、その際72年初頭にニクソン大統領が訪中するという衝撃的な事実が世界に伝えられた。ドブレイン大使は蒼白になり、数週間後にSALT交渉が前進し始め、今度はソ連が72年春のニクソン訪ソに同意した。

わが国への波紋：
ニクソン・ショック

ところで以上のような劇的な政策展開は、それが米国の対中政策の大転換を含んでいたにもかかわらず、十分な事前通報もなしに発表されたという点で、日本に対しては、いわゆる「ニクソン・ショック」と呼ばれる深刻な波紋を投げかけた。外務省づめの記者永野信利氏の著書「外務省研究」は、当時の模様を、「ロジャーズ(國務長官)からニクソン訪中の事前通報があった。ロジャーズは遅れて申し訳ないといっていた」という牛場駐米大使からの電話連絡に、受話器を握っている政府高官の手が震えた」と記している。それまでの日本は、「政経分離」という対中姿勢にもかかわらず、「政経不可分」を主張するアメリカに万難を排して協力してきた経緯があった。それだけに突然の政策転換は、当時の佐藤内閣の屋台骨を揺さぶり、やがてその崩壊へとつながることになったと言われる。

アメリカ側のそうした仕打ちの背景には、繊維交渉における日本の対応へのしっぺ返し説や、キッシンジャーの日本嫌い説等諸説があるが、「遅れて申

し訳ない」とロジャーズ國務長官の言葉の中に、外交の主導権をホワイトハウス(大統領補佐官)に奪われた國務省自身の無念さもうかがうこともできるのではないかと。もっとも、アメリカの対中政策の転換は、日米関係に一時的にはこうした緊張をもたらしたが、長期的には対中政策をめぐる日米の軋轢要因がとりのぞかれたことをも意味し、その後の日中国交正常化への道筋を開くことになるのである。

終わりに

キッシンジャー長官のみならず、アメリカの歴代政権は、ケネディ政権のベスト・アンド・ブライテストと呼ばれた政策集団以来、多かれ少なかれボストンの学界との絆の恩恵を受けてきている。そのように見ればボストンは全米でも極めてユニークな土地柄と言わざるを得ず、その意味で日本としても常に目の離せない、そして大切にしていきたいコミュニティといえるのではないだろうか。

(聖心女子大学教授)

懇親ゴルフ 96年5月18日(土)

富士平原CCで5月18日(土)に開催された。今回は参加者が少なく1組だけであった。次回は平日の10月31日(木)に開催を予定している。(別項参照)

ハイキングの会

4月20日の高尾山ハイキングは雨天のために中止された。

6月29-30日の尾瀬一泊の旅行は、7人が参加した。(別項参照)

歴史の会

金子幹事の病気のために7月13日の会は延期された。

これまで岩倉使節段関連に限定してきたが、今後は幅を広げて、岡倉天心の研究もしては如何との提案があった。